

ひびしん  
経営内容のお知らせ



上半期  
ディスクロージャー誌

2018.4.1 ▶ 9.30



福岡ひびき信用金庫



## 平成30年度 上半期の業績について

### 1. 事業概況

平成30年度上半期の日本経済は、4-6月期前半の景気が堅調に推移したように回復基調を辿るものと予測されましたが、7-9月期後半は豪雨や地震、台風等自然災害の影響もあり、一旦減速を余儀なくされる見込みです。下半期は企業の旺盛な設備投資意欲などを背景に、再び景気は回復基調を辿ることが見込まれますが、米国トランプ政権による保護主義政策次第では下振れの可能性もあり、まだまだ予断を許さない状況にあるといえるでしょう。

このような環境の下、平成30年度は、新中期経営計画(平成30年度～平成32年度)のテーマ『Change Challenge Create ～100年金庫に向けて～』の初年度として、お客様と共に持続可能なビジネスモデルを構築するため、

- ① 生産性の向上
- ② 人事施策の高度化
- ③ 安定した財務基盤
- ④ 価値の創造

を重点施策とし、好循環を作るための課題に取り組んでいるところです。

その結果、平成30年度の上期は以下のような業績となりました。

### 2. 業績

#### 預金の状況

上期預金キャンペーンとして、昨年来ご好評をいただいております、個人のお客様向け商品である“懸賞金付定期預金マネーヒット”を6月1日から8月末まで販売し、12,587百万円の増加となりました。

この結果、預金積金の9月末残高は、前期末対比283億円増加の6,977億円となりました。

#### 貸出金の状況

貸出金については、お客様の課題解決に取り組むことによって、貸出金利息の確保を行うよう、事業性融資と消費者ローンに重きを置き営業活動を行った結果、個人向けの貸出について、消費者ローンを1,748件の2,930百万円獲得、事業性融資では新規事業所先467先を開拓し3,073百万円を獲得することができました。

この結果、貸出金の9月末残高は、前期末対比20億円増加の3,399億円となりました。

#### 収益の状況

収益面では、事業性融資及び消費者ローンに注力した結果、貸出金利息は対前年同月比増加となり、有価証券利息配当金も増加となったことから、業務収益は対前年同月比で増加となりました。また、その他業務収益は減少となった一方で臨時収益が増加したため、経常収益は対前年同月比で増加となりました。

費用面においては、預金利息が減少となった一方で役務取引等費用が増加となりました。また、株式等売却損が増加した一方で、不良債権処理費用は減少しました。その結果、経常費用は対前年同月比増加となりました。

以上の結果、経常利益は前年同月比356百万円増加の1,468百万円、当期純利益は375百万円増加の1,155百万円となりました。

## 平成30年度 上半期の業績 (計数)

以下に掲載している諸計数等は、当金庫へのご理解を深めていただくために任意に開示しているものであり、会計監査人の監査は受けておりません。

また、各計数につきましては、単位未満を切り捨てて表示しております。

## 預金・貸出金の状況

平成30年9月期の預金積金残高は、6,977億円となりました。また、平成30年9月期の貸出金残高は、3,399億円となりました。

## ■預金積金残高

(単位：百万円)

		平成30年3月期	平成30年9月期
預	金 積 金 残 高	669,424	697,751
	流 動 性 預 金	343,731	360,473
	定 期 性 預 金	325,530	337,149
	そ の 他 の 預 金	163	128

## ■貸出金残高

(単位：百万円)

		平成30年3月期	平成30年9月期
貸	出 金 残 高	337,940	339,982
	割 引 手 形	4,969	4,740
	手 形 貸 付	24,219	23,453
	証 書 貸 付	290,890	291,639
	当 座 貸 越	17,861	20,149

## ■業種別貸出金残高

(単位：百万円)

	平成30年3月期			平成30年9月期		
	貸 出 先 数	貸 出 金 残 高	構 成 比 (%)	貸 出 先 数	貸 出 金 残 高	構 成 比 (%)
製 造 業	532	19,607	5.8	534	19,653	5.8
農 業、林 業	13	60	0.0	13	55	0.0
漁 業	3	4	0.0	2	1	0.0
鉱 業、採石業、砂利採取業	5	449	0.1	6	447	0.1
建 設 業	1,654	35,184	10.4	1,692	35,539	10.5
電 気・ガ 斯・熱 供 給・水 道 業	2	376	0.1	4	618	0.2
情 報 通 信 業	70	687	0.2	71	654	0.2
運 輸 業、郵 便 業	150	7,560	2.2	144	7,172	2.1
卸 売 業、小 売 業	1,235	28,899	8.6	1,255	29,611	8.7
金 融 業、保 険 業	46	9,731	2.9	52	9,652	2.8
不 動 産 業	769	57,610	17.0	777	57,533	16.9
物 品 賃 貸 業	26	2,018	0.6	26	1,935	0.6
学 術 研 究、専 門・技 術 サ ー ビ ス 業	217	1,887	0.6	229	1,797	0.5
宿 泊 業	11	687	0.2	10	667	0.2
飲 食 業	513	4,992	1.5	526	4,835	1.4
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業、娯 楽 業	314	3,729	1.1	322	3,656	1.1
教 育、学 習 支 援 業	50	1,564	0.5	52	1,583	0.5
医 療、福 祉	290	12,189	3.6	306	11,194	3.3
そ の 他 の サ ー ビ ス	454	6,586	1.9	466	6,811	2.0
地 方 公 共 団 体	12	10,024	3.0	12	11,531	3.4
個 人	24,196	134,089	39.7	24,142	135,031	39.7
合 計	30,562	337,940	100.0	30,641	339,982	100.0

(注) 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。



# ひびしん 経営内容のお知らせ

## 損益の状況

健全な経営を維持し、地域のお客様の信頼に常に応えていける体制を整えるため、経営体質の強化に努めています。

### ■損益の状況

(単位：百万円)

	平成29年9月期	平成30年9月期
経常収益	6,557	7,215
経常費用	5,444	5,746
業務純益	933	1,064
コア業務純益	691	867
経常利益	1,112	1,468
税引前当期純利益	1,107	1,492
当期純利益	779	1,155

## 有価証券の状況

当金庫では主に国内の債券を中心に有価証券運用を行っており、平成30年9月期の評価損益は7,751百万円となっております。

### ■有価証券の状況

(単位：百万円)

	平成30年3月期				平成30年9月期			
	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損	時価	評価損益	うち評価益	うち評価損
株式	12,503	995	1,481	486	15,182	940	1,724	783
債券	153,443	6,405	6,434	28	145,157	4,772	5,190	417
その他の	109,829	△69	2,555	2,625	116,866	2,038	3,857	1,819
合計	275,777	7,331	10,471	3,139	277,206	7,751	10,772	3,021

(注) 1. 上記の「その他」とは外国証券及び投資信託等です。  
2. 評価損益には帳簿価額(償却原価)と時価との差額を計上しております。

## 不良債権の状況

金融再生法開示債権による不良債権比率は3.54%となりました。不良債権に対しては十分な引当を実施しており、内部留保とあわせて備えは万全です。

### ■金融再生法上の不良債権残高

(単位：百万円)

	平成30年3月期	平成30年9月期					
	開示残高	開示残高 (a)	保全額 (b)	担保・保証等による 回収見込額 (c)	貸倒引当金 (d)	保全率 (b/a)	引当率 d/(a-c)
金融再生法上の不良債権(A)	12,853	12,095	10,449	7,874	2,574	86.39%	61.00%
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,377	3,980	3,980	3,070	910	100.00%	100.00%
危険債権	6,535	6,286	5,372	4,170	1,201	85.46%	56.80%
要管理債権	1,940	1,828	1,096	633	462	59.94%	38.73%
正常債権	326,041	328,814					
合計(B)	338,895	340,909					
不良債権比率(A)/(B)	3.79%	3.54%					

(注) 1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の理由により経営破綻の状態に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。  
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。  
3. 「要管理債権」とは、「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権をいいます。  
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がない債権であり、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権をいいます。

## 自己資本の状況

当金庫の平成30年9月期の自己資本比率は、国内基準の4%を大幅に上回っており、経営の健全性を維持しております。

### ■単体自己資本比率

(単位：百万円)

項 目	平成30年3月期		平成30年9月期	
		経過措置による 不算入額		経過措置による 不算入額
コア資本に係る基礎項目の額（イ）	47,146		48,239	
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	45,454		46,619	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,388		1,315	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	303		303	
コア資本に係る調整項目の額（ロ）	83		109	
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。）の額の合計額	83	20	109	27
<b>自己資本の額（イ）－（ロ）（ハ）</b>	<b>47,062</b>		<b>48,129</b>	
信用リスク・アセットの額の合計額	378,722		400,694	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△6,473		△4,202	
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。）	20		27	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△6,494		△4,229	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	17,902		17,902	
<b>リスク・アセット等の額の合計額（ニ）</b>	<b>396,624</b>		<b>418,596</b>	
<b>自己資本比率（ハ）/（ニ）</b>	<b>11.86%</b>		<b>11.49%</b>	

(注)自己資本比率の算出方法を定めた告示の改正に伴う新しい自己資本規制に基づき算出しています。  
なお、当金庫は国内基準を採用しております。

## 出資金及び会員数の状況

信用金庫は、営業地域内の中小企業や住民の方々を会員とした協同組織の地域金融機関です。地域の皆さまからお預かりしたご預金等をもとに、会員の方はもちろん地域の皆さまに広くご融資しております。信用金庫は地域の中小企業や住民の皆さまに安定した資金を提供することで、地域の再生・活性化を図ることを使命としております。

### ■出資金および会員数

	平成30年3月期	平成30年9月期
出 資 金 残 高 (百万円)	3,460	3,448
会 員 数 (人)	72,955	73,313